

キックオフイベント2024

水産事業者及び行政機関（大分県・佐伯市）、観光まちづくり団体との連携協力のもと、2年目のキックオフイベントを実施。1年目の歩みと2年目の取組内容を発表。当日同会場にて、海をテーマにしたマルシェや交流座談会を実施し、海を知り・海を考える1日を創出。



キックオフイベント
(R6.7月)

アイゴメニュー開発
(R6.7月～11月)

海洋体験プログラム マリスタ2024 ～海と人を考える～

大学生プロデューサーと構築した研修プログラムを高校生が体験し、両者ともに海の知識・体験を高める機会を創出。1泊2日の体験研修、体験研修での気づきを発表・共有する体験発表会をセットとしたプログラムを実施。発表会に合わせて交流座談会も同時開催した。



海洋体験プログラム
(R6.6月～9月)

学校給食連携
(R6.10月)

飲食店・小売店連携（佐伯アイゴウィーク）

11月5日の「おいしい魚『アイゴ』を食べる日」に合わせて、市内26店舗の飲食店・小売店と連携し、各店にてアイゴメニューを提供していただく「佐伯アイゴウィーク」を実施。世代問わず幅広い方々に「アイゴ」や佐伯の海に触れていただく機会を創出した。



飲食店・小売店連携
(R6.11月)

事業広報
(R6.4月～11月)

アイゴを活用した商品開発

地域の料理人や産直店舗オーナー、高校生などと連携し、様々な視点からのアイゴの活用メニューの開発を実施。試作メニューについては、キックオフ等での試食提供を行い、その内の1品の「アイゴのオイル漬け」を商材として販促デザインの検討を行なった。



学校給食連携

直川・宇目・上浦エリアの小中学校6校、約300食のアイゴを使用した給食を提供。また直川中学校全生徒及び東雲小学校6年生には出前授業を実施し、海のごちそうを通じた学びを提供。加えて、地元高校生と連携し、小中学生用の海を学ぶ学習動画制作に取り組んだ。



事業広報・WEB/SNS/動画によるブランディング

募集リリースや開催レポートなど各事業ごとにPRTIMESの活用、地元メディアの協力も仰ぎながらの情報拡散を実施。Instagram、HPなどで随時情報を更新。活動の動画撮影を実施し、年間事業の記録を作成。



事業内容



キックオフイベント2024

実施内容

さいき城山桜ホールにて、水産事業者及び行政機関（大分県・佐伯市）、観光まちづくり団体との連携協力のもと、2年目のキックオフイベントを実施。1年目の歩みと2年目の取組内容を発表した。あわせて、アイゴメニューの試食会や交流座談会も実施した。

成果

来場者：300名 出展協力：11ブース
各種機関と連携し、海をテーマにしたマルシェや出張図書館、海のパネル展示を同日実施していただくことで、親子連れから年配の方まで幅広く海を海を知り・海を考える1日を創出した。また、大学生や高校生に運営サポーターとして参画していただくことで、多世代交流の機会ともなった。

課題・改善点

海に関連したマルシェや企画を連携開催することで、多くの方に海に触れていただく機会は作れたが、子どもや学生が体験できるワークショップや参加型のブースを形成することで、より積極的な集客や効果を生めると感じた。



海洋体験プログラム マリスタ2024 ～海と人を考える～

実施内容

大学生プロデューサーとともに企画・開発した海洋体験プログラムを高校生を対象に実施。1泊2日の佐伯市蒲江・屋形島での体験研修と、体験を通しての意識・行動変容を発表・共有する体験発表会までをセットとしたプログラムを実施した。

成果

企画参加者：大学生5名、高校生6名
海に対する思いや知識、居住地の異なる学生が集まり、共に体験し学びを深める機会を創出した。体験だけでなく、学びを第3者に伝える場を設けることでの学びの深掘りやアクションプランを構築するまでの導線を組むことができた。体験する高校生だけでなく、全体を通して伴走した大学生にとっても、企画プロデュースの通した多角的な学びの機会を創出することができた。

課題・改善点

予想よりも市外・県外からの参加者が多かったのが、想定外であった。公共交通機関等を用いて開催会場までの到達が難しい開催日程となっていた点は反省点である。加えて、今年度は直前に自然災害が発生したこともあり直前の欠席者が発生する事態も生じてしまった。次回実施の際には、日程及び会場設定を検討するとともに、佐伯市内の地元高校生の参加者も促せるよう、周知改善を図る。



アイゴを活用した商品開発

実施内容

地元で活躍するシェフや産直店舗オーナー、高校生などと連携し、様々な視点からのアイゴを用いた活用メニューの開発を実施した。

成果

地元シェフによるアイゴのオイル漬けやブランド（ペースト）などの試作メニューをキックオフイベントにて約300食の試食提供。メニュー開発において高校生を交えた試食会も別途実施。アイゴのオイル漬けを商材とした販促デザイン案の試験制作を行なった。

課題・改善点

①一般の方が日常的に調理等に活用できる形にするか、②価値が低い（無い）と認識されているアイゴの市場価値を高め安定的・好状態で水揚げを促せるかを意識した検討が必要である。環境への意識や学びを含めた付加価値や風味・肉質を生かしたブランディング・商品開発が必要であると感じた。



学校給食連携

実施内容

直川・宇目・上浦エリアの小中学校6校を対象に約300食のアイゴを使用した給食を提供した。また、直川中学校全生徒及び東雲小学校6年生には“アイゴ”“磯焼け”をテーマにした出前授業を実施し、海のごちそうを通じた学びを提供。

成果

提供食数：約300食
給食連携時に出前授業や海の学びを記載したランチョンマットを用いた提供、お昼の校内放送での紹介を行うことで、海のごちそうを通じた学びの機会を創出した。

課題・改善点

学校給食ついて、出前授業が実施できるクラスが限定的になってしまうため、今後実施学校数が拡大した場合には、動画資料やオンライン授業、ランチョンマットなどを活用しながらの、海の学びの提供を行いたいと考えている。

事業内容



学習動画教材制作

実施内容

小・中学生を対象とした海を学ぶ学習教材制作を地元高校生とともに実施。給食や授業などでアイゴを通じた海を学ぶ機会の創出・拡大を目指し、“アイゴ”“磯焼け”をテーマに佐伯の海の魅力や変化についてを、高校生の視点を用いて制作。

成果

地元高校生4名（高校1年生）による動画制作。水産事業者（漁師・漁協・加工・養殖）や小中学生へのインタビュー、撮影、動画編集作業を高校生が主体となって実施。小中学生でもわかりやすく興味を惹きつける動画とすべく、高校生がデザインしたイラストやナレーションを検討し、それらを組み込んだ動画を作成。

課題・改善点

初めて動画制作を行う高校生メンバーであったため、想定よりも期間を要する形となった。多くの高校生が部活動に所属しているため全員が集まったの撮影や作業を行うことに苦慮した。あくまで高校生が主体の経験を体験してもらいたいが、そのためには十分（余分）に作業期間に確保した形での設定が必要であると感じた。



飲食店・小売店連携（佐伯アイゴウィーク）

実施内容

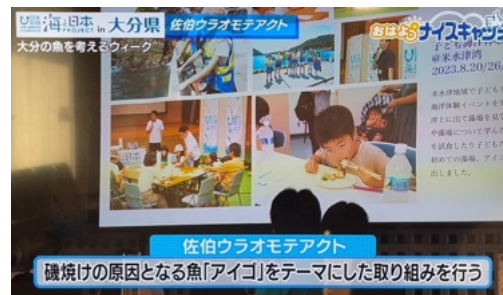
11月5日の「おいしい魚『アイゴ』を食べる日」に合わせて、11/5~11/16の期間に佐伯市内26店舗の飲食店・小売店と連携し、各店にてアイゴメニューを提供していただく“佐伯アイゴウィーク”を実施。世代問わず幅広い方々に“アイゴ”や佐伯の海に触れていただく機会を創出した。

成果

初年度（2023年度）よりも拡大した計26店舗の飲食店舗の協力をいただき実施を行った。お弁当屋、居酒屋、惣菜スーパー、パン屋、カフェなど多様な事業者の協力を得て実施できたことで、幅広い層へのリーチを行うことができた。学校給食連携と同様に海の学びを記載したランチョンマットの配布・設置を行なっていただくことでの学びの機会創出を行った。

課題・改善点

昨年度はアイゴのフィレを各事業者に配布しての実施であったが、今年度はフライ加工されたアイゴを配布したことで協力を得やすかったように感じる。アイゴという植食性魚類に目を向ける取り組みにより海の未来を考える機会創出には繋がっていると感じる一方、本事業と別途で各事業者が個別に仕入れての活用という点では他の魚種と比較しての価格感など課題感を感じている。



事業広報・WEB/SNS/動画によるブランディング

実施内容

募集リリースや開催レポートなど各事業ごとにPRTIMESの活用、地元メディアの協力も仰ぎながらの情報拡散を実施。加えて、Instagram、HPなどで随時情報を更新するとともに、年間活動の動画撮影を実施し、年間事業の記録を作成した。

成果

各種取組・イベントについて、地域の放送局や新聞社に情報周知・取材依頼を行い、ニュースや情報番組・新聞掲載を複数回していただくことで、メディアの力と連携しての露出拡大ができた。2年目は小学生から大学生までの幅広い学生と事業に取り組めたことも好要因であったと感じる。また、PRTIMESやSNS・HPの活用により、多くの方々の目に触れていただく機会の創出を行った。

課題・改善点

メディア露出や一定の情報拡散はできていると実感しているが、まだまだ不足を感じている。日常的な情報発信の強化・各種メディアと連携した露出拡大を行うとともに、佐伯ウラオモテアクトの取組や目的についての認知を広げられるよう活動動画をWEB等に掲載していきたいと考えている。



課題と改善案	課題		改善案	
	体制	期初には4名体制でスタートしたが、期中に1名が離脱することとなったため、来期に向けて人員の補充が必要となる。行政連携や民間連携については、河野及び浅利（事務局）が引き続き実施が可能だが、より強固な連携を求めるためには増員が必要。各事業の当日運営などについても、人員の補充が必要であるため確保をする必要あり。	▶▶▶	新たなスタッフの確保を実施する。数名の候補者がいるため事業説明や参画にむけての説明を行い調整を進める。事業に参画できる人材の確保も行いつつ、そうした人材への教育を図ることで事業の柱を担う人材を育てていく。
	運営	今年度のキックオフや体験発表会については、当日運営に高校生、大学生がサポートに入ったため充実した運営体制となったが、海洋体験の離島現地研修については、高校生・大学生が研修に入るため、運営サポートスタッフの増員が必要。また、各事業においては行政、教育、漁業、各関係者との連携をより深めていく必要がり、関係者を巻き込んでいくパワーが不足していると感じている。	▶▶▶	体制の改善案と同様、スタッフの確保が必要のため引き続き高校生・大学生人員への呼びかけ・確保を行なう。また関係各所への連絡・調整をより迅速にし、メールやリアルでの報連相を増やしていく。
	広報	SNSやHPなどの更新については事業ごとに実施している内容は充実しているが、それを編集し、拡散する部分で不足を感じている。小まめな発信が必要。たとえばリアルタイムでの発信やライブ配信などのツールを活用する。また新聞やTVなどのメディアに関しては佐伯地域でのウラオモテアクトの活動の目新しさが薄らいでいるため進んで取り上げたいというモチベーションが落ちているように感じる。メディアにとって求心力のある取り組みを追加していく必要を感じている。	▶▶▶	SNSやHPの専任を設け、各事業毎に告知・募集・実施・完了の最低限の投稿を必ず行うよう徹底する。メディア向けに求心力の高い内容を練り、企画力を高めることも平行して行う。
	事業内容（1） キックイベント	2年間、積み上げてきたものがあるため内容も充実してきているが、より良い空間・体験を演出する必要がある。函館で実施されていた形式を参考・踏襲している感が強いため、佐伯独自のキックオフスタイルとは何か？を問い続けながらより多くのステークホルダーとの連携、巻き込みを演出していきたい。アイゴの水揚げから消費者の口に入るまでの工程がすべて佐伯地域で完結しているという現状を学びや体験に変える仕掛けが欲しい。	▶▶▶	2年目の活動報告と3年目の活動への協力など関係各所への報連相を実施する。また、2年目までに構築したつながりをもとに、佐伯地域らしいキックオフスタイルを提案する。
	事業内容（2） 地域の若者に向けた体験学習プログラム	海洋体験プログラムについては、広く大分及び福岡からの大学生と連携しての実施となったが、オンラインツールでのコミュニケーションは図れたものの、より密な関係構築が必要があると感じた。学習教材動画に関しては、高校生の予定確保・調整に苦慮する場面が多かった。これまでにない多世代・斜めの繋がりの中での学びが形成できたのは良い点だが、高校生に関しての事業へのコミット不足を痛感した。	▶▶▶	各種連絡ツールと対面のハイブリットでの関係構築を行う。有志形式での学生確保も苦慮する点であると感じており、今年度参加者の協力による周知や今年度参加者の引き続いての参画等も仰いでいく。また、各学校や教育関係者への情報提供を随時行う。あくまで学生にとって主体的に自分ごととしての経験・体験してもらいたいが、そのための期間とバックアップ体制を確保した形での設計行うよう心がけたい。
	事業内容（3） 教育機関との連携	学校給食連携では、小中学校計6校での実施を行うとともに、直川中学校全生徒及び東雲小学校6年生には“アイゴ”“磯焼け”をテーマにした出前授業を実施し、海のごちそうを通した学びを提供することができたが、全体で見たときに一部の児童に対する機会創出となっているため、佐伯市内の多くの方に海への意識を持っていただくためにより広く大きな展開が求められると感じている。	▶▶▶	学校給食については、年間計画が早い段階で実施されるため計画立てた行動が必要となる栄養教諭や関係課との連携を強化し、佐伯市内の小中学校において広く学校給食提供及び海の学びの機会創出の実施を目指す。また、対面での出前授業の実施は限定的となってしまうため、実施校数が拡大した場合には、動画教材やオンライン、ランチョンマットなどを活用しながらの、学びの提供を行いたいと考えている。
	事業内容（4） 飲食店との連携	飲食店連携では、昨年よりも多く26店舗の飲食店及び小売店の協力を得て佐伯アイゴウィークの実施ができたが、佐伯地域の特性として、魚食の様々な企画（フェア）が展開されており、インパクトが他競合イベントと相まって薄れてしまう印象を感じている。	▶▶▶	今年度の開催と同様に11月5日の「おいしい魚『アイゴ』を食べる日」と連動した形での展開や、学校給食連携の実施時期も佐伯アイゴウィークと紐づくような日程で実施することでの、認知・露出を強化していく必要がある。
	その他	佐伯地域で水揚げされるアイゴの確保、水揚げされるアイゴの質、水揚げ量など「アイゴ」に軸を置くからこそ感じられる課題がある。そもそも活用する文化のない地域でその食材を広く活用していただくためのムーブメントを起こしている。その中で少しずつ自走している人やコト、モノが生まれ始めているが、3年目以降も自走をし続けるようなサポート方法を模索する必要がある。	▶▶▶	すでに自走を始めた人やコト、モノに対してのフォローを図りつつ、進捗の確認と課題の共有など対話を深めながら自走のフェーズへと誘っていく。

MARINE STUDY

MARISTA 2024

海と人を考える

佐伯ウラオモテアクト・海洋体験プログラム
マリスタ2024～海と人を考える～ 実施報告書

海と日本プロジェクト 海のごちそう地域モデル in 佐伯
佐伯ウラオモテアクト2024 / 一般社団法人KIISA

①大学生プロデューサーとの企画構築

- ・体験プログラムの企画構築から実施運営まで参画していただく大学生プロデューサーとして5名の大分県内外の大学生が参加。
- ・プログラム構築に先立って、大学生の佐伯の海に関する知識を高めるために2024年6月1日・2日の二日間にて海洋関連事業者5名の方へのインタビューを行った。二日間で実際に見聞きした内容を参考に、8月に実施する高校生を対象とした体験プログラムの企画構築を実施。
- ・イベント名称・スケジュール（座学・ワーク・体験・交流）・体験プログラムから体験発表会までの伴走など、どのようにしたら高校生への深い学びや意識行動変容を起こせるかをイメージしながら企画を作り上げた。

私たちが企画しました！大学生から高校生へのメッセージ



はまちゃん
濱崎幹人
(三重県出身)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部

実際に海を触って自分で感じて学べるところが、今回のプログラムの一番のワクワクポイントです。参加してくれる高校生の皆さんにとって忘れられない二日間にします！一緒に海のことをもっともっと好きになりましょう！



なつみん
首藤なつみ
(大分県出身)

久留米大学 経済学部

地元でも知らないことはたくさんあると思います。私も事前の研修を通して、佐伯には本当にステキな人たちがいることを知りました。そんな人たちに会える機会になるので、楽しみにしてきてください！



エッティ
堀江亮佑
(福岡県出身)

立命館アジア太平洋大学
サステナビリティ観光学部

このプログラムに参加することが、海に興味を持つきっかけのひとつになれるといいなと思います。屋形島の名物、きれいな色の鮮魚を獲ってみんなでバーベキューをしますよ！みんなで楽しみましょう。釣り教えて下さい！



みっぴー
中川実優
(兵庫県出身)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部

高校生の皆さんが学びやすい、吸収しやすい、楽しいプログラムになるように全力で計画しました。夏休みの貴重な2日間、海と人のことを学び、一緒に行動を起こしていきましょう。皆さんの気づきが私たちの学びにもなります！



みっきー
村山実生
(新潟県出身)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部

「海について考える」と聞くと堅苦しく聞こえるかもしれませんが、実際はそんなことはありません。地元の人にガイドしてもらいながら、佐伯の海を実際に潜って見るシュノーケリングも。ぜひ佐伯の海の魅力を実感してください！



・ イベント名は、MRINE STUDYを略した形の「マリスタ」とし、事前の海洋関連事業者へのヒアリングの中で大学生が感じた「海と人の繋がりを伝えたい」という思いから決定。

・ 8月に実施する1泊2日の佐伯市蒲江屋形島での島学習プログラム（インプット）とそこで得た学びや気づきを第3者へと共有する体験発表会（アウトプット）を一連とした研修とし、高校生の参加者を募集した。アウトプットの間を設けることで、より深く自身の学びを振り返り吸収し、各個人の次のアクションへと繋げていくことを目指し企画した。

・ 高校生の参加申込は定員10名に対して9名の申し込みがあったが、8月上旬に佐伯市で自然災害（地震）があったこともあり、うち3名は参加辞退となり、6名の高校生とのマリスタ実施となった。



参加費
無料

定員
10名

募集締切
7.31(水)

*定員になり次第締め切りとなります(先着順)



1泊2日の島学習 in 屋形島 【大分県 佐伯市】

高校生参加者募集中! 【市外や県外の高校生も参加可!】

#snorkeling #beach cleaning
#BBQ #fireworks
#discussion with college students
#visiting an aquaculture farm
#and more!

OITA SAIKI
佐伯市
act

主催:一般社団法人 KIISA
共催:日本財団 海と日本プロジェクト

佐伯市は、海と日本プロジェクトの
一環で行っています。

1泊2日のプログラム体験 | 屋形島
8.18 MON. - 8.19 MON.
体験発表会 | さきき坂山校ホール
9.28 SAT.

MARINE STUDY

マリスタ
2024

参加費 無料 定員 10名

海と人を考える

大学生と一緒に
屋形島で食べて学ぶ
2日間のプログラム
& 体験発表会

#シュノーケリング
#ビーチクリーン
#バーベキュー
#花火
#大学生と意見交換
#知れば知るほど、海はおいしい

高校生参加者募集中!

②インプットプログラム（島体験学習）

日程：2024年8月18日（日）～8月19日（月）

開催場所：佐伯市蒲江・屋形島参加人数：11名（高校生：6名、大学生：5名）

佐伯市蒲江地区にある島民12人の有人離島・屋形島を舞台に大学生プロデューサーとともに企画開発した「マリスタ2024～海と人を考える～」の島学習プログラムを実施。専門家による座学に始まり、浜辺観察やシュノーケリング、ビーチクリーン、養殖筏見学、魚捌き体験、海のごちそうBBQなど多様なアクティビティを実施。自身の学びや気づきをまとめ、共有する座談会やワークの時間を設けることで学びや思考を深める二日間を開催した。

INPUT 屋形島で、見て聞いて食べて学ぶ2日間！

1泊2日のプログラム体験 | 屋形島

8.18日～8.19日



8月18日(日)

10:00 集合@道の駅かまえ
10:00-11:30 アイスブレイク/海連想ゲーム
11:50 蒲江港発
12:00 屋形島着/集合写真
12:10-13:00 昼食(お弁当)
13:00-14:30 着替え/散策/養殖筏見学
14:30-17:00 浜辺観察/シュノーケリング
17:00-20:00 夕食準備/海のごちそうBBQ
20:00-21:00 1日のふりかえり座談会
21:00 花火
22:00 就寝

8月19日(月)

6:30 起床
7:00 朝食準備
8:00-9:00 アイゴを使った朝食
9:00-10:00 ビーチクリーン
10:00-10:30 グループ分け
10:30-11:30 発表準備
11:30-12:30 片付け/チェックアウト
12:30-12:50 集合写真/屋形島発
13:00-14:00 蒲江港着/昼食
14:00-15:00 総括/まとめ発表(各班5分)
15:00 集合写真/解散



実際の海や魚に触れての学び

・二日間の始まりに魚介類研究家・池田健太郎氏による佐伯の海の魅力や価値、課題について学びを得たのちに、海のアクティビティを実施。シュノーケリングで海中を泳ぐ魚や海底の藻場の様子を観察したり、浜辺に打ちあげられた海洋ゴミのビーチクリーンを行い、夕食ではアイゴやタカノハダイなど普段の食卓ではあまり活用されていない未利用魚を捌く体験や屋形島で養殖されている緋扇貝を生簀から揚げる体験も行い、海のごちそうBBQを楽しみました。参加した高校生からも、話では聞いたことがあったり、普段から身近に見ている海だけど、実際に触れることでの気づきや発見が数多くあったとの声がありました。

体験発表会に向けての気づきと学びの整理

・今回実施した島学習の中でも、参加・体験する前との思考の変化や湧き上がった思いなどを参加メンバーと共有しあうグループワーク、それぞれの言葉でまとめる個別ワークを実施。各高校生に大学生プロデューサーが伴走しながら学びの深掘りを行い、二日目の最後には作成した資料を用いてシュートプレゼンを実施しました。1か月後の体験発表会までも大学生がサポート（オンライン）につき、発表資料の作成を進めました。

プログラムに参加した高校生のコメント

- ・実際に魚を見て学ぶ喜びやワクワク感を感じられたことが今回一番の気づき。魚は好きで、図鑑や動画で見ることが多いが、体験する楽しさが印象的で、これから海の課題解決などに関わっていく上でも、知識に勝るモチベーションになると感じた。
- ・海を身近に感じていたつもりだったが、“体験”したことでその深さが圧倒的に変わった気がする。地元に戻って海での活動を展開してみたい。
- ・今回初めてこのようなイベントに参加した。知識がないと危機感も覚ええないし、行動もできないなと感じました。これからも知識や体験を得るために、積極的にイベントに参加して環境についてより深く学んでいきたいなと思いました。



③アウトプットプログラム（体験発表会）

日程：2024年9月28日（土）14時～16時

開催場所：さいき城山桜ホール 小ホール

発表参加高校生：4名（2名体調不良等で欠席）

参加人数：40人

・体験発表会冒頭では、大学生プロデューサーによる「マリスタ」についての紹介プレゼンを実施。企画の背景やどのような思いでプログラムを構築していったのか、実際の現場でどのような学びを高校生たちに提供し、体験発表会の日を迎えているかを説明した後に高校生のプレゼンへと移行。

・高校生が学習プログラムで学んだことや海への新たな気づき、自分ごととして海に対して行うアクションプランやアクションの振り返りなどの体験発表を行いました。1か月と短い期間の中でしたが、自分たちで様々な角度から今回の研修をふりかえり、自分らしいアクションに結びつけようとした努力がしっかりと現れた発表内容であった。また、第3者へと伝わりやすい資料を意識してデザインや話の組み立てなど、大学生のサポートのもとよく整理された資料でのプレゼンテーションを行ってくれました。

参加費
無料

申し込み
不要

佐伯の海をもっと知りたい人必見!

MARINE STUDY

MRST
2024

海と人を考える

OUTPUT PROGRAM

体験発表会

+ワールドカフェ座談会

[日時] 2024.9.28(土) 14:00-16:00

[場所] さいき城山桜ホール 小ホール

「マリスタ2024～海と人を考える～」のインプットプログラムとして、8月18日/19日の二日間、佐伯市蒲江屋形島での島学習プログラムを実施しました。県内外から参加した6名の高校が、見て聞いて食べて学んだ体験を発表・共有する場として体験発表会を開催します。

“佐伯の海で得た学びが、どんなアクションへつながるのか”

発表会当日は、高校生・大学生、来場者の皆さんとのワールドカフェ方式での交流座談会も実施します。ぜひお越しください。

主催 / 一般社団法人KIISA
共催 / 日本財団 海と日本プロジェクト

佐伯ウラオモテアクトの活動は「日本財団 海と日本プロジェクト」の一環で行なっています。

日本財団 海と日本プロジェクト

OITA SAIKI 島学習 act

【発表タイトル：MRST2024】 大分県立大分雄城台高等学校 3年生



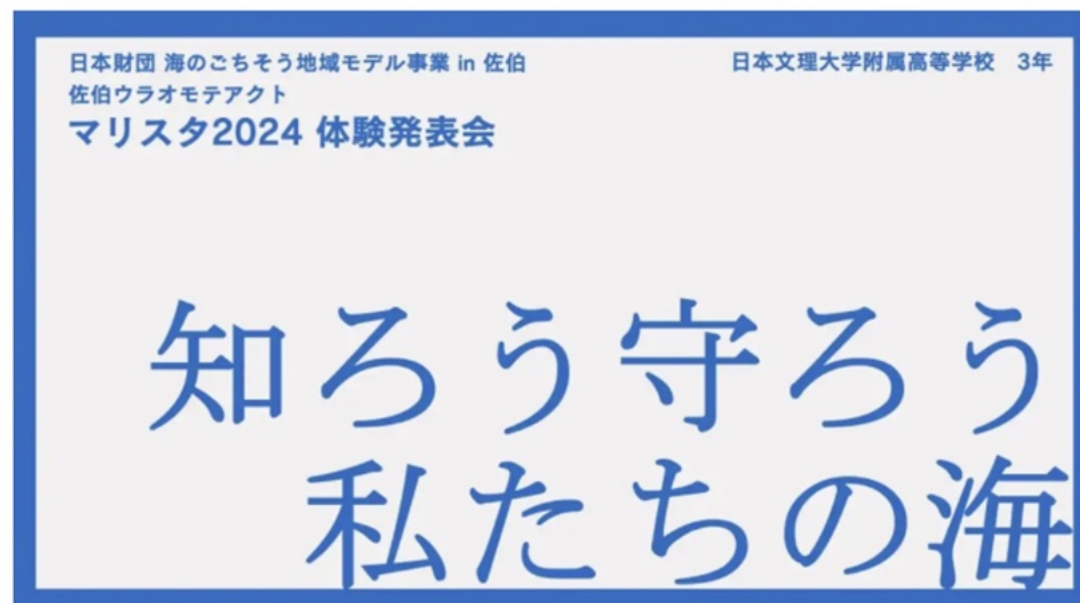
【発表タイトル：危機感を覚えるために】 埼玉県立川口北高等学校 1年生



【発表タイトル：アイゴを「楽しむ」】 福岡県立城南高等学校 3年生



【発表タイトル：知ろう守ろう私たちの海】 日本文理大学附属高等学校 3年生



ワールドカフェ座談会

- ・ 高校生による体験発表会の後、大学生プロデューサーや来場者にも参加していただき、ワールドカフェと呼ばれる対話形式のワークショップ座談会を実施。
- ・ 発表を行なった高校生ごとに島（グループ）を作り、4テーブルに分かれて、発表内容を話題の種として高校生のアクションプランの実現に向けたアイデア出しや、参加者それぞれが取り組んでみたい海の未来につながる一歩などを意見交換する機会を創出した。
- ・ 一般参加の方は、海洋関連事業者・教育機関の方・まちづくり関連の方・釣りが趣味の方・高校生など幅広い分野の方が参加してくださり、多様な観点・立ち位置からの意見や考えを交わらせることでの新たな気づきや交流が生まれる場にもなりました。



参加した学生・大人からの声

(発表した高校生：女性)

・とても緊張しましたが、とてもいい経験になりました。食卓でアイゴのことや磯焼けについてなど話す機会を持ちました。今日参加してくださったみなさんにも今夜はスーパーでお魚を丸ごと一匹買っていただいて、家で捌いて、それを食べるという体験を通して今日のことを家族や友人に伝えて欲しいと思います。

(大学生プロデューサー：女性)

・高校生たちの伴走をしてきましたが、部活やテストで忙しい中、素晴らしい発表内容に仕上げてくれたと思います。今後のアクションも明確にしていまして、今後の活動にも注目しながら引き続きサポートもしていこうと思います。自分自身も住んでいる地域でできるアクションをしていこうと思います。

(参加した50代：男性)

・予想していたよりも素晴らしい発表内容で高校生のポテンシャルの高さを知った。10代の子たちが海への興味関心を自分ごととして捉え、この会場にいる方達に一生懸命に伝えていた。50代の私もアクションを起こしたいと素直に感じた。



企画総括

・研修の対象となる高校生のみではなく、企画を構築する大学生、企画実施に協力してくださった海洋関連事業者の方々、発表会及びワールドカフェに参加いただいた高校生を含めた一般の方々と、海の学びの創出に触れたり携わることのできる関わりしろを創出することで、それぞれの立場や役割で「海の未来」を考え学び行動に変えていく、可能性や波及性のある企画が実現できたと感じている。

・特に、高校生にとっては、実際に海を体験して得られた気付きや自身の考え・思いを形にして伝える過程での自己探求の能力の向上にも繋がったと感じる。また、企画構築に関わってくれた大学生にとっても、企画マネジメントや高校生の伴走でのコーチングなど、運営側に携わることでの知識・経験の探求が行えたと感じている。



メディア露出

各メディア露出（12月5日時点）

- ◇TV放送回数 計4回（OBS大分放送：3回、ケーブルテレビ佐伯：2回）
- ◇新聞掲載回数 計1社 3回
- ◇WEB掲載 計137回

テレビ露出

エリア	日付	媒体名
大分/佐伯	07月16日	ケーブルテレビ佐伯 さいきっちニュース
大分/県内	09月09日	OBS大分放送 おはようナイスキャッチ
大分/佐伯	10月09日	ケーブルテレビ佐伯 さいきっちニュース
大分/県内	11月14日	OBS大分放送 イブニングプラス
大分/県内	11月28日	OBS大分放送 イブニングプラス

▼11/14 OBS大分放送 イブニングプラス



▼7/16 ケーブルテレビ佐伯 さいきっちニュース



▼9/9 OBS大分放送おはよう ナイスキャッチ



▼10/9 ケーブルテレビ佐伯 さいきっちニュース



▼11/28 OBS大分放送 イブニングプラス



計5回放送

新聞露出（2024年12月5日現在）

日付	媒体名	テーマ
07月20日	大分合同新聞 朝刊	キックオフイベント
10月05日	大分合同新聞 朝刊	海洋体験イベント 体験発表・ワールドカフェ座談会
10月14日	大分合同新聞 朝刊	学校給食連携

▼大分合同新聞 7/20



①新アイゴ料理を試食②海について考える参加者＝佐伯市のさいき城山桜ホール

【佐伯】佐伯市の一般社団法人「K.I.S.A.」（キーサー）は海の日の15日、日本財団の「海と日本プロジェクト」の一つとして取り組む「佐伯ウラオモテアクト」の本年度の活動計画を発表した。

磯焼けの要因の一つとされる魚「アイゴ」の料理メニューの開発、普及などの各種活動を通して、海の今を知り、海洋環境について考える機会にしようというもの。2年目。

市内大手町のさいき城山桜ホールでキックオフイベントを開催。田中利明市長のあいさつに続き、キーサーの富崎一真、河野功寛共同代表、浅利善然活動事務局担当が今後の事業について説明した。

本年度は、高校生を対象に、県内外の大学生5人が企画した海洋体験プログラム「1泊2日の島学習イン屋形島・マリスター2024」（8月）をはじめ、市内の高校生らによる海の学習用動画教材製作、アイゴ料理の学校給食提供、飲食

店と連携したアイゴウィーク開催などに取り組む。

この後、多世代で海について考える意見交流会があった。魚介類研究家の池田健太郎さん（市内長島町）が佐伯の海や藻場の現状について説明し、参加した約20人の市民らはそれぞれの価値観をもとに意見を出し合った。終了後、全員でアイゴのオイル漬けなど、開発中の新メニューを試食した。

（安部亮）

【佐伯】佐伯市の一般社団法人「K.I.S.A.」（キーサー）は、アイゴの料理メニューの開発、普及などの各種活動を通して、海の今を知り、海洋環境について考える機会にしようというもの。2年目。

市内大手町のさいき城山桜ホールでキックオフイベントを開催。田中利明市長のあいさつに続き、キーサーの富崎一真、河野功寛共同代表、浅利善然活動事務局担当が今後の事業について説明した。


本年度は、高校生を対象に、県内外の大学生5人が企画した海洋体験プログラム「1泊2日の島学習イン屋形島・マリスター2024」（8月）をはじめ、市内の高校生らによる海の学習用動画教材製作、アイゴ料理の学校給食提供、飲食

店と連携したアイゴウィーク開催などに取り組む。

この後、多世代で海について考える意見交流会があった。魚介類研究家の池田健太郎さん（市内長島町）が佐伯の海や藻場の現状について説明し、参加した約20人の市民らはそれぞれの価値観をもとに意見を出し合った。終了後、全員でアイゴのオイル漬けなど、開発中の新メニューを試食した。

（安部亮）

▼大分合同新聞10/05



海の問題、解決策考える
佐伯で高校生ら体験発表

【佐伯】佐伯市の一般社団法人「K.I.S.A.」（キーサー）が取り組む「佐伯ウラオモテアクト」の本年度事業「海洋体験プログラム」の体験発表会が9月28日、同市大手町のさいき城山桜ホールであった。

磯焼け要因ともされる魚「アイゴ」の料理メニュー開発など、さまざまな活動を通して海について考える機会にしようというもの。日本財団の「海と日本プロジェクト」の一つで、活動は2年目。

海洋体験プログラムは8月18、19の両日、同市浦江沖の屋形島で行った。研修内容は立命館アジア太平洋大、久留米大の学生5人が企画し、県内外の高校生6人が臨んだ。

発表会には関心を持つ市民ら約40人が参加した。キーサーの河野功寛共同代表があいさつ。大学生が実施までの取り組み、当日の様子などを話した。

続いて大分雄城台高3年の梅田華楓さん（17）らが体験発表。シュノーケリングで感じた磯焼けの様子などを踏まえながら、海に対する気持ち、意識の変化を語り、身近な海の問題に対して考えた解決策を発表した。

この後、海の問題、課題に対して「自分ができるアクションって何だろう？」をテーマに、参加者全員で意見を交わした。

（安部亮）

▼大分合同新聞 10/14



アイゴ通して海考える
小中学校の給食にフライ

【佐伯】佐伯市の一般社団法人「K.I.S.A.」（キーサー）は8、9の両日、市日本財団の「海と日本プロジェクト」として取り組む「佐伯ウラオモテアクト」の活動。磯焼けの要因の一つとされるアイゴを食べる文化を育み、海の問題を考えてもらおうというもの。昨年に続き2回目。

8日はキーサーの関係者らが市内直川の直川中を訪問。河野功寛共同代表が磯焼けなどの海の問題や、藻場の大切さなどを説明した。生徒たちはアイゴのフライを楽しみながら、海の話に耳を傾けた。

（安部亮）

WEB掲載メディア

キックオフイベント

PV	654
訪問者数（UU）	653
転載サイト	43

#	媒体名	媒体社名
1	現代ビジネス	株式会社講談社
2	南日本新聞	株式会社南日本新聞社
3	TBS NEWS DIG	TBS・JNN NEWS DIG合同会社
4	BtoBプラットフォーム 業界チャネル	株式会社インフォマート
5	iza（イザ!）	株式会社産経デジタル
6	SEOTOOLS	ブラストホールディングス株式会社
7	エキサイトニュース	エキサイト株式会社
8	eltha（エルザ）	オリコン株式会社
9	BEST TIMES（ベストタイムズ）	株式会社ベストセラーズ
10	暮らしニスタ（クラシニスタ）	株式会社主婦の友社
11	ウレぴあ総研	ぴあ株式会社
12	ハビママ*	ぴあ株式会社
13	Infoseek ニュース（インフォシークニュース）	楽天グループ株式会社
14	GREE ニュース	Glossom株式会社
15	WalkerPlus（ウォーカープラス）	株式会社KADOKAWA
16	毎日新聞デジタル	株式会社毎日新聞社
17	時事ドットコム	株式会社時事通信社
18	産経ニュース	株式会社産業経済新聞社
19	日本農業新聞	株式会社日本農業新聞
20	ジョルダンニュース！	ジョルダン株式会社
21	みなと新聞	株式会社みなと山口合同新聞社
22	朝日新聞デジタルマガジン & [and]	株式会社朝日新聞社

PRESIDENT Online 大分合同新聞
現代ビジネス



23	dメニューマネー	株式会社NTTドコモ
24	CREA WEB（クレア ウェブ）	株式会社文藝春秋
25	マビオンニュース	株式会社ONE COMPATH
26	東洋経済オンライン	株式会社東洋経済新報社
27	大分合同新聞プレミアムオンライン Gate	有限会社大分合同新聞社
28	おたくま経済新聞	シー・エス・ティー・エンターテインメント株式会社
29	@DIME（アットダイム）	株式会社小学館
30	PRESIDENT Online（プレジデントオンライン）	株式会社プレジデント社
31	財経新聞	株式会社財経新聞社
32	ORICON NEWS(オリコンニュース)	オリコン株式会社
33	JBpress（ジェイビープレス）	株式会社日本ビジネスプレス
34	宮崎日日新聞社 Miyanichi e-press	宮崎日日新聞社
35	BIGLOBE ニュース	ビッグロブ株式会社
36	マイナビ農業	株式会社マイナビ
37	NewsPicks	株式会社ユーザベース
38	30min. サンゼロミニッツ	株式会社イード
39	TRAICY（トライシー）	株式会社トライシージャパン
40	大分経済新聞	合同会社Keytail
41	とれまがニュース	株式会社サイトスコープ
42	ニフティニュース（@niftyニュース）	ニフティ株式会社
43	@niftyビジネス	ニフティ株式会社

WEB掲載メディア

海洋体験イベントマリスト開催

PV	253
訪問者数（UU）	253
転載サイト	29

#	媒体名	媒体社名
1	大分経済新聞	合同会社Keytail
2	ニフティニュース（@niftyニュース）	ニフティ株式会社
3	毎日新聞デジタル	株式会社毎日新聞社
4	TBS NEWS DIG	TBS・JNN NEWS DIG合同会社
5	東洋経済education×ICT	株式会社東洋経済新報社
6	dメニューマネー	株式会社NTTドコモ
7	エキサイトニュース	エキサイト株式会社
8	SEOTOOLS	プラスホールディングス株式会社
9	とれまがニュース	株式会社サイトスコープ
10	ウレぴあ総研	ぴあ株式会社
11	Infoseek ニュース（インフォシークニュース）	楽天グループ株式会社
12	NIKKEI COMPASS	株式会社日本経済新聞社
13	時事ドットコム	株式会社時事通信社
14	NewsPicks	株式会社ユーザベース
15	ORICON NEWS(オリコンニュース)	オリコン株式会社
16	東洋経済オンライン	株式会社東洋経済新報社
17	PRESIDENT Online（プレジデントオンライン）	株式会社プレジデント社
18	JBpress（ジェイビープレス）	株式会社日本ビジネスプレス
19	大分合同新聞プレミアムオンライン Gate	有限会社大分合同新聞社
20	南日本新聞	株式会社南日本新聞社
21	@DIME（アットダイム）	株式会社小学館
22	マピオンニュース	株式会社ONE COMPATH

PRESIDENT Online 大分合同新聞

現代ビジネス



23	@niftyビジネス	ニフティ株式会社
24	宮崎日日新聞社 Miyanichi e-press	宮崎日日新聞社
25	BIGLOBEニュース	ビッグロブ株式会社
26	STRAIGHT PRESS（ストレートプレス）	株式会社PR TIMES
27	iza（イザ！）	株式会社産経デジタル
28	BEST TIMES（ベストタイムズ）	株式会社ベストセラーズ
29	ジョルダンニュース！	ジョルダン株式会社

WEB掲載メディア

海洋体験イベント体験発表会・交流座談会告知

PV	756
訪問者数（UU）	756
転載サイト	36

#	媒体名	媒体社名
1	めざましmedia（めざましメディア）	株式会社フジテレビジョン
2	ニコニコニュース	株式会社ドワンゴ
3	東洋経済オンライン	株式会社東洋経済新報社
4	時事ドットコム	株式会社時事通信社
5	NewsPicks	株式会社ユーザベース
6	とれまがニュース	株式会社サイトスコープ
7	宮崎日日新聞社 Miyanichi e-press	宮崎日日新聞社
8	大分合同新聞プレミアムオンライン Gate	有限会社大分合同新聞社
9	南日本新聞	株式会社南日本新聞社
10	@niftyビジネス	ニフティ株式会社
11	CREA WEB（クレア ウェブ）	株式会社文藝春秋
12	ReseMom（リセママ）	株式会社イード
13	BtoBプラットフォーム 業界チャンネル	株式会社インフォマート
14	ORICON NEWS(オリコンニュース)	オリコン株式会社
15	iza（イザ!）	株式会社産経デジタル
16	現代ビジネス	株式会社講談社
17	TBS NEWS DIG	TBS・JNN NEWS DIG合同会社
18	毎日新聞デジタル	株式会社毎日新聞社
19	東洋経済education×ICT	株式会社東洋経済新報社
20	TRAICY（トライシー）	株式会社トライシージャパン
21	ジョルダンニュース！	ジョルダン株式会社
22	eltha（エルザ）	オリコン株式会社

PRESIDENT Online



現代ビジネス

大分合同新聞



23	SEOTOOLS	ブラストホールディングス株式会社
24	ウレぴあ総研	ぴあ株式会社
25	暮らしニスタ（クラシニスタ）	株式会社主婦の友社
26	WalkerPlus（ウォーカープラス）	株式会社KADOKAWA
27	BEST TIMES（ベストタイムズ）	株式会社ベストセラーズ
28	ハピママ*	ぴあ株式会社
29	Infoseek ニュース（インフォシークニュース）	楽天グループ株式会社
30	dメニューマナー	株式会社NTTドコモ
31	30min. サンゼロミニッツ	株式会社イード
32	JBpress（ジェイビープレス）	株式会社日本ビジネスプレス
33	PRESIDENT Online（プレジデントオンライン）	株式会社プレジデント社
34	NIKKEI COMPASS	株式会社日本経済新聞社
35	@DIME（アットダイム）	株式会社小学館
36	大分経済新聞	合同会社Keytail

WEB掲載メディア

海洋体験イベント体験発表会・交流座談会開催

PV	750
訪問者数（UU）	749
転載サイト	29

#	媒体名	媒体社名
1	ReseMom（リセママ）	株式会社イード
2	NewsPicks	株式会社ユーザベース
3	@DIME（アットダイム）	株式会社小学館
4	NIKKEI COMPASS	株式会社日本経済新聞社
5	SEOTOOLS	プラストホールディングス株式会社
6	Infoseek ニュース（インフォシークニュース）	楽天グループ株式会社
7	マピオンニュース	株式会社ONE COMPATH
8	とれまがニュース	株式会社サイトスコープ
9	東洋経済オンライン	株式会社東洋経済新報社
10	大分経済新聞	合同会社Keytail
11	エキサイトニュース	エキサイト株式会社
12	時事ドットコム	株式会社時事通信社
13	@niftyビジネス	ニフティ株式会社
14	ジョルダンニュース！	ジョルダン株式会社
15	BIGLOBEニュース	ビッグロブ株式会社
16	ニコニコニュース	株式会社ドワンゴ
17	大分合同新聞プレミアムオンライン Gate	有限会社大分合同新聞社
18	南日本新聞	株式会社南日本新聞社
19	ORICON NEWS(オリコンニュース)	オリコン株式会社
20	ReseMom（リセママ）	株式会社イード
21	宮崎日日新聞社 Miyanichi e-press	宮崎日日新聞社
22	dメニューマネー	株式会社NTTドコモ

PRESIDENT Online

大分合同新聞



現代ビジネス



23	東洋経済education×ICT	株式会社東洋経済新報社
24	ウレぴあ総研	ぴあ株式会社
25	BEST TIMES（ベストタイムズ）	株式会社ベストセラーズ
26	ハピママ*	ぴあ株式会社
27	めざましmedia（めざましメディア）	株式会社フジテレビジョン
28	毎日新聞デジタル	株式会社毎日新聞社
29	WalkerPlus（ウォーカープラス）	株式会社KADOKAWA